



診療科紹介

消化器内科

患者様に最善の治療を迅速かつ適切に提供します。
総合力と専門性の高さは大学病院にひけをとりにません。

消化器内科は「消化管」、「胆膵」、「肝臓」の3つのグループによって構成され、消化器疾患全般にわたって専門的な医療を提供しています。

3つのグループは垣根を超えて密接に連携し、患者様に最善の治療を迅速かつ適切に提供します。総合力と専門性の高さは大学病院にひけを取らない医療水準を保っています。また外科や放射線科など他科との連携も重視しており、内科的治療法と外科的治療法、放射線療法などを組み合わせた最善の治療法をご提供します。

消化管グループ

食道、胃、小腸、大腸の病気の検査、治療を行っています。生命の根幹をなす食物の消化、吸収を担う消化管にはさまざまな病気があり、胃癌や大腸癌などは死亡原因の上位を占めています。

しかしカメラをはじめとしたさまざまな検査手段が発達しており、早期発見することで根治が期待できる治療を提供できる機会も多くなっています。消化管グループはカメラを用いた体への負担が少ない方法で治療することを得意としています。また検査を通してご自身の病気のリスクを知ること、早期発見に結びつく適切なアドバイスの提供をこころがけています。

胃カメラ・大腸カメラによる検査 / ピロリ菌の診断・除菌 / カメラによる早期がん、ポリープの治療 / 抗癌剤治療 / 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）/ カプセル内視鏡

胆膵グループ

胆道（胆嚢と胆管）・膵臓の病気の診断、治療を行っています。胆道・膵臓の病気は診断が難しく、とくに膵癌・胆管癌・胆嚢癌は難治癌の代表と言われています。また、悪性疾患でなくても、総胆管結石による胆管炎や急性膵炎は、重症化した場合には生命の危険もあり得る恐い病気です。

胆道・膵臓の病気の診断には、まず腹部超音波やCT、MRIなどの検査が行われますが、さらなる精密検査や治療が必要な場合には、特殊な内視鏡を用いた手技を行います。

内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP） / 超音波内視鏡検査（EUS） / 総胆管結石の治療 / 閉塞性黄疸の治療 / 膵癌の治療 / 消化管ステント



ERCP：内視鏡を用いて器具を出し入れすることで、がんの診断をしたり、総胆管結石、胆管炎、閉塞性黄疸の治療をします。

肝臓グループ

肝臓の病気の診断、治療を行っています。肝臓は沈黙の臓器といわれていますが、肝臓に対してウイルスや薬剤、アルコール、脂肪などの負担がかかると、患者さん本人は全く自覚症状がない中で、肝臓が炎症を起こし肝炎となり、それが長期化することで肝硬変、肝がんへと進行していくことが知られています。

肝臓グループではできてしまった肝がんに対する治療も行っていますが、採血や腹部超音波検査、CT、MRIなどの検査を行うことで、病気が発生する前から肝臓が発する声なき声を汲み取って、病気を未然に防ぐための生活習慣のアドバイスや病気の早期発見に努めています。

肝がん 肝炎 肝硬変



ラジオ波焼灼療法：超音波（エコー）下で肝がんに対して直接針を穿刺して、熱の力でがんを死滅させます。

担当医師紹介



部長
小池 幸宏
(肝臓 G)



医長
外川 修
(胆膵 G)



医長
瀬戸 元子
(消化管 G)



医長
磯村 好洋
(消化管 G)



医長
後藤 絵理子
(肝臓 G)



医師
大山 博生



医師
大澤 由紀子



医師
宮川 佑



医師
小畑 美穂